



舞鶴医療センター便り 最近の急性期脳梗塞治療について

脳梗塞とは、脳の栄養血管が閉塞することによって発生する疾病ですが、その機序にはいくつかの種類があります。中でも心臓内に生じた血栓が原因となっておこる心原性脳塞栓症は、脳の主要な動脈が心臓由来の血栓によって突然閉塞するため、急に重篤な症状を来すことがあります。これが放置されれば広範な脳組織の壊死により致命的な脳梗塞に至ります。近年、血栓によって突然閉塞した血管を急性期に再開通させるための様々な血管内治療用の機器が開発され(図 1)、全国の病院で急性期の再開通治療(血栓回収療法)が積極的に行われるようになりました。

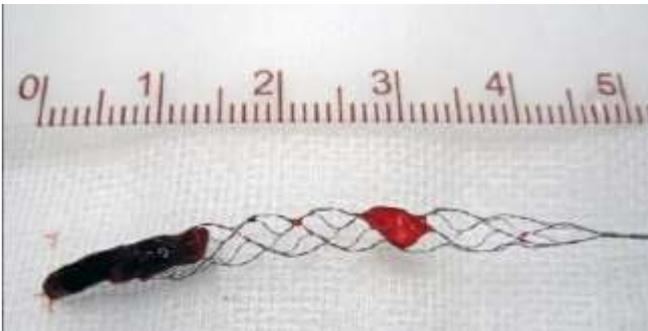


図 1. スtent機材で除去された実際の血栓

当院でも 2015 年から急性期の血栓回収療法を導入するようになり、実施件数は年々増加しています(表 1)。

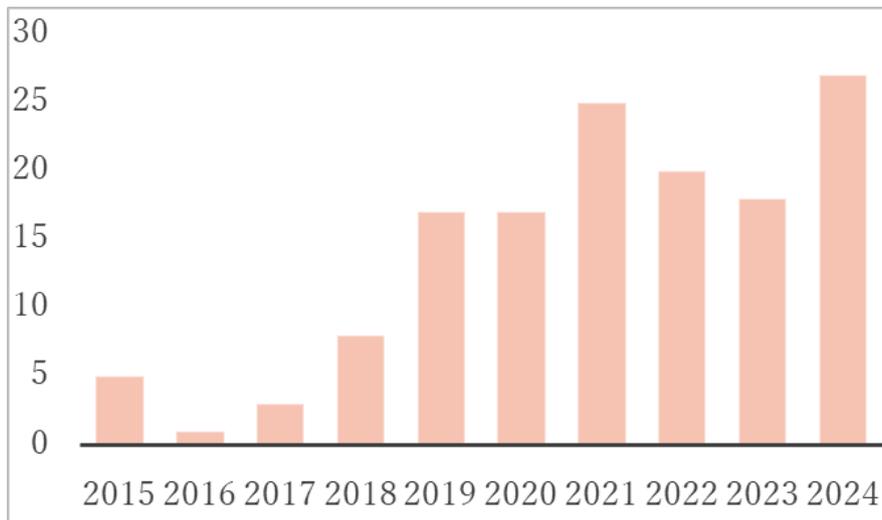


表 1. 当院での血栓回収治療の実施件数(2024 年 11 月現在)

なかには、搬入時に重篤な意識障害や麻痺を呈する患者さんが劇的に回復するケースも経験します。ただし、この治療が安全に実施できるのは急性期(概ね発症 6 時間以内)のみです。突然に片側の手足の麻痺や発語困難などを来した場合は迷わず救急車を呼んでください。

(文責:脳神経外科 井上 靖夫)

発行元:舞鶴医療センター 広報委員会